



基本
理念

高度で良質な医療を提供し、病む人々が安心し、信頼できる病院をめざします

メディカルキッズ医療体験ツアー

7月15日に中学生19名、16日に小学生22名を対象に第4回「メディカルキッズ医療体験ツアー」を行いました。毎年、応募者の多い人気の企画となっています。今回は、より身近に医療体験を感じてもらうために、各担当の職員が検討し、新たに「エコ体験」「血糖測定体験」「超音波凝固切開装置（ハーモニック）を使用した体験」を追加しました。中学生、小学生ともに白衣や手術衣を着て、当院の名札を着用し、真剣な表情で体験に望んでいました。「将来、医師になりたい」「病院で働く色々な職業にも興味を持った」などの感想も聞かれ、貴重な体験になったと思います。これからの進路を考えるときに『医療職』がひとつの選択肢になってくれることを期待しています。

(研修・教育部副部長 和氣 美紀)



採血体験



縫合体験



内視鏡体験



超音波凝固切開装置体験



BLS 体験



心電図体験



顕微鏡体験

呼吸器内科の紹介

呼吸器内科部長 後藤 康高

当院呼吸器内科は呼吸器疾患全般を診療しています。

平成11年4月より本院に呼吸器科が創設され、平成24年4月より呼吸器内科と呼吸器外科となり、本年8月より宮崎大学医学部附属病院呼吸器内科より今津善史先生が加わり、原田診療看護師、後藤との診療スタッフは3名となっております。

- 原発性肺癌の診断及び集学的治療を中心に、今まで以上に呼吸器内科疾患、肺気腫などのCOPD、肺炎や抗酸菌症などの感染症、気管支喘息などの気道疾患、突発性肺線維症などの間質性肺疾患、急性あるいは慢性呼吸不全の評価、診断、治療を行っています。
- CT、MRIなどの画像診断、気管支鏡、超音波気管支鏡(EBUS)による内視鏡診断を幅広く行っています。悪性腫瘍の診断が中心ですが、感染性疾患、びまん性肺疾患を含め、諸疾患の診断に努めています。
- 湿性胸膜炎、自然気胸、外傷性血胸など胸腔ドレナージが必要な疾患の入院治療も行なっています。
- 肺癌の集学的治療のうち、化学療法については殺細胞性抗癌剤治療、分子標的薬治療、免疫チェックポイント阻害薬治療を、免疫組織学的診断や遺伝子変異診断などを行い最も適した個別化治療の提供を行っています。

呼吸器疾患かどうかの診断や治療方針についてお困りの症例についても遠慮なくご紹介ください。



氏名：今津 善史

勤務部署：呼吸器内科

着任にあたっての抱負： 平成29年8月よりこちらの病院に赴任となりました今津善史といいます。

呼吸器内科を専門としています。都城は15年ほど前にも一度働いたことがあります、今度が二回目になります。以前はバタバタした診療をしていましたが、その後少しは経験を積みバタバタぐらいで済むようになったと思います。都城市やその近隣で困っている呼吸器疾患の患者さんの助けに少しでもなればと考えています。これからどうぞよろしくお願い致します。

看護学校オープンキャンパス

本校は教育理念である「生命の尊厳と人間愛を基盤とした豊かな人間性を育み、最善の看護を実践できる自律した人材の育成」をめざし、アドミッションポリシーに掲げている資質を持った学生を確保するためにオープンキャンパスを2回開催いたしました。第1回目は91名、第2回目は81名と多くの高校生や保護者の皆様に参加していただき、本校の魅力をお伝えし、看護や看護学校に対してご理解を頂く機会を得ることができました。



学校紹介の後、学校で実際に学んでいる静脈血採血、赤ちゃん抱っこ、高齢者体験について看護学生がレクチャーを行い、一緒に看護技術を体験していただきました。また、懇談会では和やかな雰囲気の中、学校生活や実習、寮生活の具体的な様子や受験勉強、入学試験に向けての学習方法などの質



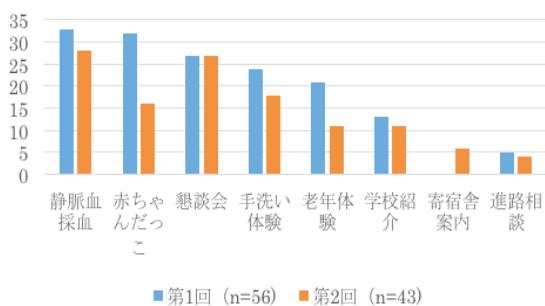
問に対し、丁寧にお話しすることができました。最後に希望者の皆様には寄宿舎の案内と個別進路相談を行い、入学後の学校生活についてイメージを描いていただきました。

参加していただいた皆様から、「看護に興味がある、看護師になりたい、国家試験の合格率が良い、他校に比べて質が良いと感じた、優しく接してもらった、行きたい気持ちが高まった」等の多くの声を伺うことができました。また、保護者の皆様からも、「附属の学校で学習環境が充実している、授業料が安い、卒業生の評価が高い、教育に対する熱意を強く感じ心強く思った」との感想をいただきました。

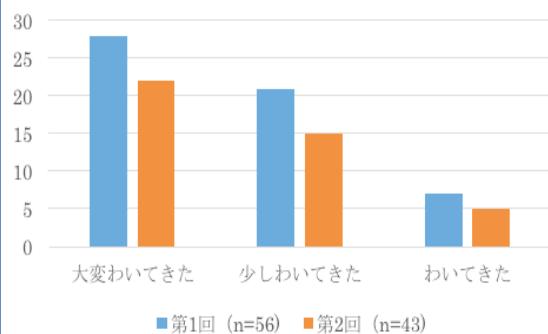
参加していただいた多くの皆様が将来の理想とする看護師像の実現のために、本校の入学を希望されることを願い、更なる教育の質の向上へと努力いたします。

(看護学校 間宮 みどり)

興味を持った内容



本校への興味・入学への気持ち



〈アドミッションポリシー〉

本校は教育理念・教育目的に基づき、豊かな人間性を備えた看護師を育成するために、以下の資質を持った学生を求めています。

1. 人に関心を持ち、人とかかわることができるひと
2. いろんな人の話を聞き受け止める柔軟性と、自分の考えを表現できる想像力を持つひと
3. 人とのつながりを大切にし、感謝や思いやりの気持ちを表現できるひと
4. 健康や生活に関心を持ち、自己管理できるひと
5. 志を高く持ち、自分の成長のための努力をすることに意欲的なひと

第19回日本医療マネジメント学会学術総会において優秀演題賞を受賞しました

2017年7月7日、8日仙台国際センターにて第19回日本医療マネジメント学会学術総会が開催され当院からは5演題発表を行いました。

地域連携パスに取り組んでいる吉川教恵整形外科医長は「二次骨折予防のための骨粗鬆症治療～大腿骨近位部骨折地域連携パスでの取り組み」について発表を行いました。当直をしながらスライド原稿を作成し、6日夜に仙台に入り、発表が終わるとすぐに飛行機に乗る弾丸発表。それでも牛タンを堪能し幸せを味わったことでしょう。さて残りの発表者は6日夕方に飛行機、新幹線を乗り継ぎ国際センター近くのホテルへ入りました。

決戦前の腹ごしらえに仙台の街へ繰り出し、牛タン、テールスープ、麦ごはん（実は梯子）に海鮮と仙台グルメを堪能しました。これも学会の楽しみの一つでした。

緊張もほぐれたところで皮膚排泄ケア認定看護師嶽元とも子が「糜爛・潰瘍形成した小腸ストーマに多職種で介入した一症例」について栄養サポートチームと連携し患者のQOLが改善したことを発表しました。数々の学会での経験からとても落ち着いた発表でした。

また、看護部医療安全委員会より坂上日登美が発表した「事実が正しく伝わる看護記録 転倒事例、影響レベル3a以上のインシデント事例をもとに」は、平成25年より取り組んでいる医療安全的視点からインシデント発生時の看護記録に焦点を絞り監査した結果をまとめたものでした。4月に昇任した平野看護師長も別府から応援に駆け付け発表前日の夜、ひそかに発表原稿を読んで練習した甲斐もあり無事に終えることが出来ました。

セーフティマネジメント部会からは尾上正亮副診療放射線技師長が「核医学施設の入退室におけるスリッパ履き替え廃止についての検討」について発表を行いました。時間が余るかもしれないと言しながら切り口鋭く時間一杯まで思いのたけを発表しました。

最後に医療安全部として医療安全管理部副部長の有田が「医療事故調査制度に対する都城医療センターの取組『院内死亡事例報告書』の活用」について発表を行いました。事故調査制度に対し医師が報告対象事例か判断する「院内死亡事例報告書」の提出を義務付けしたこと、管理者への確な報告と早期の検討ができる報告体制を構築したことが評価され、優秀演題賞をいただきました。残念ながら表彰式には出席することができませんでしたが、約900演題の中から選ばれた事に対し光栄に思っています。

学会は研究成果の発表の場だけでなく、新しい知識を習得する場でもあります。また、日頃の疑問を解決する場もあると考えます。

来年度の日本医療マネジメント学会学術総会は札幌です。一緒に学会へ参加しませんか？

(医療安全管理部副部長 有田 真弓)



NST専門療法士教育研修を開催しました

平成29年4月よりNST教育研修認定施設となり、第1回NST専門療法士教育研修を平成29年7月10日～7月14日の5日間にわたり開催しました。参加者は都城市の病院から8名、鹿児島県から2名、当院から2名の合計12名でした。参加職種は看護師7名、薬剤師2名、管理栄養士3名でした。講師は、NST専任（医師、看護師、薬剤師、管理栄養士）のみならず、歯科医師、歯科衛生士、臨床検査技師、作業療法士に加え、皮膚・排泄ケア認定看護師、緩和ケア認定看護師、感染管理認定看護師の様々な職種から専門性を生かした講義やワークショップを行いました。また、濃厚流動食・栄養補助食品の試飲や栄養機器関連展示では実際に試飲・試食したり機器に触れたりと職種によっては初めての体験の方もあり大変好評でした。最後に、研修を終えた感想では「認定をとるための知識の他にも、現場ですぐ使えるような知識も得ることができて非常に勉強になった」「NSTに関わっている各職種の方々の意識が非常に高く、各分野以外の知識も豊富に持っているのがすごいと思った」など感想を頂きました。第1回ということもあり不安もありましたが、各部門のご協力を頂き無事に



開催することができました。今年の経験を生かして、第2回、3回と開催していきますので是非ご参加ください。また当院では、栄養関連での日々困っていること、栄養に関する相談もホームページの組織横断的チーム（NST栄養サポートチーム）からE-mailサービスも受け付けています。

（NST専従管理栄養士 溝田 記子）

第8回 市民フォーラム

第8回市民フォーラムを、都城市、都城保健所との共催で、平成29年9月9日にウェルネス交流プラザで開催しました。

今回は、「食と健康」をテーマに講演を企画しました。また会場には、参加者の皆さんのが日頃の健康に対する疑問に気軽に相談できるように、医師による健康相談、看護師、薬剤師、栄養士による各種相談コーナーを設けました。

講演では、初めに当院の宮永朋子栄養管理室長より「当院での健康を重視した食事の提供」という演題で、病院で提供する食事は治療の一環であるという視点から当院の取り組みを紹介しました。次に、後藤又朗統括診療部長より「がんになりにくい食事のすすめ」という演題で、これ



した。

特別講演では、地元テレビ局UMKのアナウンサー高橋典典先生に「知れば知るほど幸せ上々都城」というテーマに、都城の食や文化の紹介と、都城の人と町の魅力を様々な視点からお話しいただきました。また、普段から社会貢献活動として行われている絵本の読み聞かせを披露いただき、参加者の皆さんも聞き入っていました。

参加された方からは、「とても勉強になった」、「日常の食生活の大切さに気付いた」などの感想をいただきました。



今後も地域がん診療連携拠点病院として、地域の方々の健康の増進と、がんの予防及び早期発見の推進のための取り組みを継続していきます。

（経営企画係長 肥後 貴之）



までの知見を踏まえ、がんの基礎的情報から食事の食べ合わせと発がん性物質の関係など身近な話が紹介されま

第8回 歯科病診連携の夕べ

平成 29 年 8 月 29 日に「歯科病診連携の夕べ」を開催しました。



講演 1



「当院における医科歯科連携の現状」として歯科口腔外科新屋俊明より都城医療センターでの周術期口腔機能管理時の実際と平成 24 年 4 月から平成 29 年 3 月までの 5 年間の周術期口腔機能実施件数が報告された。平成 24 年度は月平均 36.4 件、平成 25 年度は月平均 75.9 件、平成 26 年度は月平均 108.2 件、平成 27 年度は月平均 106 件、平成 28 年は月平均 149.2 件と増加傾向を示したこと、主な紹介診療科は外科 518 例、呼吸器外科 314 例、泌尿器科 294 例、内科 214 例、耳鼻咽喉科 93 例で、主な対象疾患は肺癌 354 例、大腸癌 231 例、前立腺癌 199 例、胃癌 128 例、悪性リンパ腫 113 例、口腔・咽頭癌 90 例であった。また、平成 26 年 10 月より当院がん患者の入院前口腔管理を、地域歯科医療機関へ依頼する「がん患者歯科医療連携」がスタートしたが、その紹介件数は 89 例と少なく、がんと診断されたら早期に各診療科から歯科口腔外科へ紹介されることの必要性も述べられた。

講演 3

「周術期の医科歯科連携から感じた口腔管理の重要性」として鹿児島県立北薩病院外科部長小倉芳人先生から鹿児島厚生連病院、鹿児島県立大島病院、国立病院機構南九州病院での周術期の医科歯科連携の実際、医科歯科連携あり、なしでの術後経過（術後炎症反応、術後合併症）、基礎疾患の影響、口腔内状態（う蝕、歯周病）の影響について報告されました。特筆すべきことは、南九州病院でのケースにおいて、術後肺炎の発症が医科歯科連携ありでは 45 例中 0 例、医科歯科連携なしでは 114 例中 6 例と、医科歯科連携が術後肺炎の予防に有用であることが示唆されたこと、糖尿病ありにおいて術後 3 日目の CRP に上昇傾向を認めたこと、歯周病ありにおいて術前、術後の白血球数に上昇傾向を認めたことが述べされました。周術期における医科歯科連携の有用性、糖尿病などの基礎疾患の重要性、歯周病などの口腔内状態の重要性を提示する有意義な講演であった。



(歯科口腔外科 新屋 俊明)

連携医療機関の ご紹介

医療法人社団 明晴会

速見泌尿器科医院

院長

速見 晴朗 先生



所在地	宮崎県都城市妻ヶ丘町4009番5号
TEL・FAX	TEL 0986-24-8344・FAX 0986-24-8341
診療科目	泌尿器科、内科、人工透析
外来受付時間	9:00～12:00 (月～土) 15:30～17:30 (月・火・水・金・土)
病床数	一般病床19床

1974年に兵庫県立加古川病院の泌尿器科より、都城医療センターの前身である国立都城病院へ転勤し1977年3月末に退職しました。

1977年6月13日に都城市妻ヶ丘町に、泌尿器科・内科を標榜して開業しました。そういうことで、都城医療センターは私にとってとても身近に感じており、各専門科の先生方にも、現在に至つていろいろと大変お世話になっております。

開業当時、都城市には泌尿器科開業の先生方が少なく、都城地方の地域医療を目的として開業した訳です。開業当初より、血液透析をはじめましたが当初4～5名の方々が今は100名を超えるくらいに多くなっております。これは、娘が宮崎大学医学部第一内科に勤務して腎臓専門医をしており、4～5年前から当院へ加勢に来てくれていることが主な要因だろうと思われます。最近では、泌尿器科関係の患者様も来られますが、腎疾患の方々が特に沢山来院されるようになり、私の時代から娘の時代に移行したなという感じが否めません。

私が開業した時は、多くの方が慢性腎炎から血液透析へということでしたが、現在は大部分の方々が、糖尿病性腎症から透析へとなっております。



また、開業して約40年間で感じたことは、透析患者様の食事療法・身体機能リハビリの必要性を感じ、2015年からサービス付き高齢者向け住宅『真ごころ』を開設、理学療法士(PT)を3名採用し、リハビリなどを通じて患者様の生きがいに尽くしています。また、介護保険を利用した訪問看護・訪問介護・居宅介護支援事業所・通所リハビリテーションもあり、医療と福祉の連携も図っております。

そして、透析医療におきましては2年前からオンラインHDFの機械を16台導入し、質の良い透析生活をして貰えればと思っています。

都城医療センターの方々にはいつも気持ちよく対応して頂いて本当に心から感謝しております。我々小さな医院にとっては、都城医療センターは心の拠り所ですので、今後とも、どうぞ宜しくお願い致します。

外来診療科別週間担当医当番表 独立行政法人 国立病院機構 都城医療センター

【全診療科 初診予約制】受付時間 8:30～11:00

【平成29年10月1日】

診療科名等		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科 ※2	初診	血液	前田宏一	休診		
		肝	加藤順也			
	再診		前田宏一	加藤順也	前田宏一 加藤順也	前田宏一 加藤高智徳
循環器内科			阿南隆一郎	阿南隆一郎	阿南隆一郎	阿南隆一郎
呼吸器内科	初診	後藤康高	今津善史	後藤康高	後藤康高	今津善史
	再診	今津善史 後藤康高	今津善史 後藤康高		今後藤康高	
呼吸器外科	初診		巻幡聰	手術日	巻幡聰	手術日
	再診	手術日 加藤文章	巻幡聰 加藤文章		巻幡聰 加藤文章	
小児科	午前	1診	今村紘子	平江健二	山元綾子	林勇佑
		1診	林勇佑	山元綾子	今村紘子	林勇佑
	午後	2診	平江健二	襄孝塙	襄孝塙	平江健二
		3診			シナジス外来 (9月～3月)	
外科	初診	沖野哲也	手術日	田中洋	手術日	沖野哲也
	再診	田中洋		松村和季	後藤又朗	杉原栄孝
消化器病センター	初診	藤原利成	駒田直人	藤原利成	駒田直人	土肥容子
	再診	駒田直人	藤原利成	駒田直人	藤原利成	駒田直人
N S T 外来			駒田直人 (第二、四火曜日 14:00～16:00)			
整形外科	初診		吉川教恵	吉川教恵		
	再診	税所幸一郎 上通一郎				吉川教恵
リウマチ科		税所幸一郎	税所幸一郎 (再診のみ)	手術日	休診	税所幸一郎 (再診のみ)
泌尿器科	1診		山崎丈嗣		山崎丈嗣	
	2診				古郷修一郎	古郷修一郎
皮膚科 ※3			中山文子 (午前)		中山文子 (午前)	中山文子 (午前)
産婦人科	初診	徳永修一	古田賢		古郷修一郎	古田賢
	再診	古郷有佳子	徳永修一 (14:30まで)		古田賢	徳永修一
耳鼻咽喉科	一般	外山勝浩	外山勝浩	外山勝浩	外山勝浩	手術日
	難聴外来	津曲省吾 (14:00～17:00)	津曲省吾			
放射線科	放射線治療	加治屋芳樹	加治屋芳樹	加治屋芳樹	加治屋芳樹	加治屋芳樹
	画像診断	新村耕平	新村耕平	新村耕平	新村耕平	新村耕平
歯科口腔外科	一般	田畠雅士 新屋俊明 久保明舞 有村真一郎	田畠雅士 新屋俊明 久保明舞 有村真一郎	手術日	手術日	横山幸三 (午後)
	ペインクリニック					
	障がい者歯科					森主宣延 (月1回)
がんサポート外来 ※4						新村耕平
緩和ケア外来 ※4						林章敏 (第四金曜日)
特殊外来		マザークラス (第二、四月曜日)	リンパ浮腫外来 フットケア外来	助産師相談室 (午後)	リンパ浮腫外来	ストーマ外来 母乳外来 過往カウンセリング外来 (14:00～15:00)

【その他の特殊診療】

診療科名等	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内視鏡センター	上部消化管 下部消化管	上部消化管 下部消化管 気管支	上部消化管 下部消化管	上部消化管 下部消化管 (午後より宮大) 気管支	上部消化管 下部消化管 下部消化管
透視撮影(胃)	外科	外科	外科		
骨塩ドック(骨粗鬆症検査)【予約制(14:00以降)】	整形外科	整形外科	整形外科	整形外科	整形外科

※1 全診療科初診予約制となりますので、事前に診療FAX連絡票にてご連絡頂きますようお願いします。また各診療科の診察日以外については、急患のみ対応となります。

※2 医療機関の方へ:血液内科の初診については、事前に診療FAX連絡票と共に、最新の血液データを送ってください。

※3 皮膚科の診察時間は、火曜～木曜、金曜の9時30分～13時となっております。

※4 がんサポート外来、緩和ケア外来については、事前に相談支援センターまでご連絡頂きますようお願いします。

※5 セカンドオピニオンの受診についても、予約制となっております。相談支援センターまでご連絡頂きますようお願いします。

※6 ベインクリニックは歯科口腔外科を受診された患者様が対象となります。

【地域医療連携室・がん相談支援センター】フリーダイヤル (0120) 411-329 FAX (0986) 26-1893

独立行政法人
国立病院機構

都城医療センター

(地域がん診療連携拠点病院・
地域周産期母子医療センター)

〒885-0014 宮崎県都城市祝吉町5033番地1

TEL/0986-23-4111(代表) FAX/0986-24-3864

E-mail/syomu-2@hosp.go.jp http://www.nho-miyakon.jp

編集発行:広報委員会